

巻頭あいさつ

安澤久子副代表

～環境フォーラム湖東への思い～

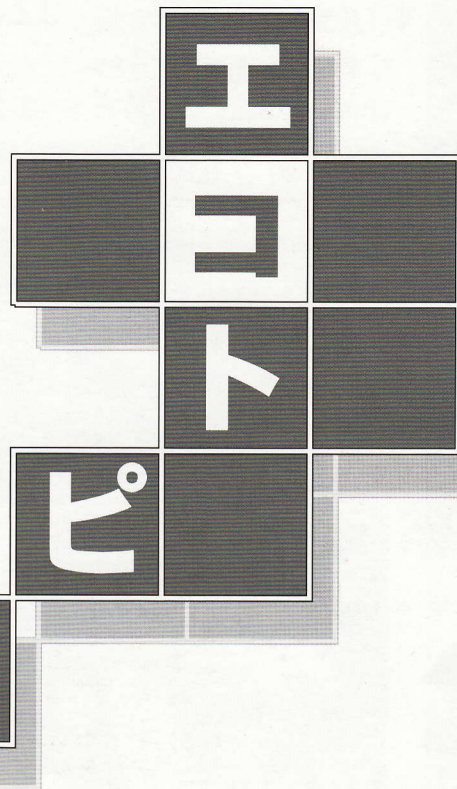
F - NEWS

立ち上げからの1年
湖東地域のセミの抜け殻

会員のすがお

環境学び舎 わのたね
ひこね自転車生活をすすめる会
湖東地域3流域の活動（NPO芹川、
犬上川を豊かにする会、宇曾川水系を見守る会）

井戸端掲示板



巻頭あいさつ

■ 環境フォーラム湖東への思い

今、私たちは、あふれるばかりのもの、この上ない便利さの中での生活があたりまえで、つぎにくる大きなしっぺ返しに気づきながらも、何をどうすればよいのかわからないまま、毎日を過ごしているのではないのでしょうか。

それぞれ気づいた課題と取り組むグループが集う「環境フォーラム湖東」が立ち上がりました。その活動をどのようにして、地域の中に広げていくかが大きな課題です。

個人を大切にすあまり、地域のつながりが希薄になったこの頃では、それぞれのグループの活動を広げることが大変です。その手段の一つとして、お隣さんからはじめよう。ご近所の人はもちろん、となり合わせて親しくなった人にも声をかけたいな。まずは活動の楽しさを伝えて、知っていただく。身近な自然の中で、ゆっくり立ち止まり、ぐるりと見渡し、今まで気づけなかった新しい発見や感動をとおして、地域の人ととけあい、無くなった連帯感を取り戻す。「環境フォーラム湖東」がこんな役割を果たせることを願っています。

さらに、参加グループが連携を図り、無駄の無い活動ができ、和、輪、環、が広がって、地域の特性を生かした、「市民が創る街づくり」につながっていけばと思います。

(安澤 久子副代表)

立ち上げからの1年

2004年3月に設立された「環境フォーラム湖東」。この1年の活動をふりかえます。

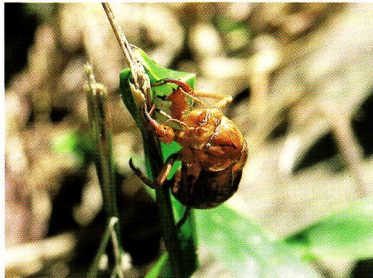
■ 設立総会



湖東地域で環境をテーマに活動をしている人々が集まりました。フォーラムを通して、お互いに交流しあい、新しい活動が生まれることを期待しています。

■ 生き物マップ調査

湖東地域に生息するセミについて調査し、結果を冊子にまとめました。いろんなところで冊子が活用され、今後も自然の変化を見守っていただくと嬉しいです。



■ 湖東地域環境シンポジウム



日頃の活動を紹介したり、講演会やパネルディスカッションを行いました。今後もより多くの住民の皆さんに会員の皆さんの活動を知っていただけるよう、工夫していきます。

■ 会員交流事業

同じ思いを持った人たちが、お互いの情報を交換し、協力し合える部分で協力し、湖東地域のよりよい環境づくりを目指して活動していくきっかけづくりとして、2月に交流会を開催しました。



琵琶湖のヨシノボリを作ろう

環境フォーラム湖東

運営委員の声

生き物マップ調査を行うのに、いったい何を調査しようか？ 募集方法は？ 回収整理は？ などみんなで議論し、実施してきました。調査結果にはデータの偏りも見受けられますが、そのまま反映しております。調査票の整理やマップの作成のため何度も集まり作業した苦労も、報告書ができあがってみると、全て楽しい思い出となりました。ありがとうございました。(S)

地域の活動の連携をさらに深めよう！

地域の環境づくりは、行政、住民、学校、企業などが一体となって取り組まねばなりません。そして役割、機能分担が必要と思います。環境のジャンルは多彩なので、「自分にできること」、「自分だからできること」は地域の中に必ずあります。団体に入るなどして、自分のできる分野で気軽に参加してほしい。今回の環境シンポジウムは成功裡に終わりましたが多くのことを学びました。もっと地元の人に参加してもらえよう企画運営には叡知を、活動には魅力を — (M)

なにか一緒に活動できる人・団体をお探しの方はぜひ環境フォーラム湖東事務局までお気軽ご連絡ください。また、今後環境フォーラム湖東に期待することや、行ってほしい活動などございましたら、あわせてご連絡ください。お待ちしております。

湖東地域のセミの抜け殻

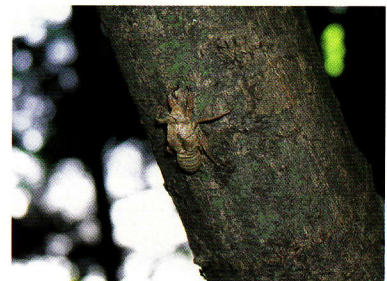
2004年7月15日から8月31にかけて、湖東地域内の小学生や有志の方のご協力を得て、セミの抜け殻調査を実施いたしました。抜け殻からセミの種類を判断し、どこにどんなセミがいるのかをまとめました。詳しくは、今回の調査をまとめました「生き物マップ調査報告書 湖東の自然環境—セミの生息調査から」をご覧ください。(小学校などに配布しております。ご希望の方は事務局までご連絡ください)

■ なぜセミのぬけがら調査なのか？

日本では32種類が生息しているといわれているセミ。この数は欧米に比べるととても多い数だそうで、セミは日本の自然の特徴のひとつだといえます。

しかし、このような日本のセミも都市化が進む地域からは姿を消したり、逆に今まで見られなかった地域に分布を広げているような状況も見られます。

今回セミ調査を進めるのは、少しずつ変化しているセミの様子を明らかにし、どの地域のどんな環境にどのようなセミが生息しているかを正確につかもうとするねらいがあります。その結果からは、人の活動が自然に対しどのような影響を与えているかを知ることができます。



■ 調査方法

- ① 今回は調査に協力していただける方を募集して、応募のあった方に調査員になっていただき、身近なところでの調査をお願いいたしました。
- ② 調査員はセミの抜け殻を見つけたら、フォーラムより配布されたセミのぬけがら検索表をもとにセミの種類を同定してもらいました。



- ③ セミの種類がわかったら、「見つけた日」「セミの名前」「セミの数」「見つけた場所」「見つけた環境」を調査票に記入して、フォーラムに提出します。
- ④ 提出された調査票を元に、フォーラム運営委員会の生き物マップ調査部会が今回の調査結果をまとめました。

セミのぬけがら調べ 調査票				
学校名				
住所				
名前				
《見つけた日》	《セミの名前》	《セミの数》どちらかに○印		
2004年 月 日		多い(5匹以上)	少ない(5匹未満)	
《見つけた場所(住所)》(住所が不明の場合は○の近くなど目撃物を記入)				
《見つけた環境》次の1~12の中から1つ選んで○をつけてください。				
1. 公園	2. 社寺	3. 原	4. 保存地	5. 街路
6. 雑木林	7. 松林	8. 雑木林	9. 雑木林	
10. 河原の林	11. 砂浜の林	12. その他()		

現場フォーラム調査
生セミの調査

■ 調査員のみなさん！

今回の調査には96名の方にご参加いただきました。そのうち81名が小学生です。そして、全部で292票の調査報告がありました。調査員のみなさん、本当にありがとうございました！

■ 調査結果データ

日本の市街地から低山に分布しているセミは7種類なのですが、調査期間の関係上、春に出現するハルゼミは今回の調査対象からはずし、クマゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシについて、調査しました。

今回の調査報告があったものすべてを表にしました。

見つけた環境	クマゼミ	アブラゼミ	ミンミンゼミ	ニイニイゼミ	ヒグラシ	ツクツクボウシ	合計	場所比率
公園	2	11	2	2	1	6	24	8.2%
社寺	7	23	14	19	12	20	95	32.5%
庭	6	31	14	10		14	75	25.7%
保存緑地	2	9	3	6	1	6	27	9.2%
街路	2	1	2	1		2	8	2.7%
雑木林	3	10	7	4	4	4	32	11.0%
松林	1	3	1			1	6	2.1%
杉林					1		1	0.3%
シイ・カシ林								0.0%
川原の林		1		1	1		3	1.0%
砂浜の林								0.0%
その他	2	7	7	4		1	21	7.2%
合計	25	96	50	47	20	54	292	100.0%
比率	8.6%	32.9%	17.1%	16.1%	6.8%	18.5%	100.0%	

※調査員募集は各小学校並びに関係市町、環境活動団体へ行いましたが、実際に調査員として調査を行ってくださった方は、地域によりばらつきができました。この結果、セミの分布を分かりやすくするマップ作成において現況とは違った表示が見られますが、これはあくまでも提出された調査票を元に正確に表した結果です。

ランキング

一番多く見つかったセミは・・・

1位	アブラゼミ
2位	ツクツクボウシ
3位	ミンミンゼミ
4位	ニイニイゼミ
5位	クマゼミ
6位	ヒグラシ

一番多く見つかった場所は・・・

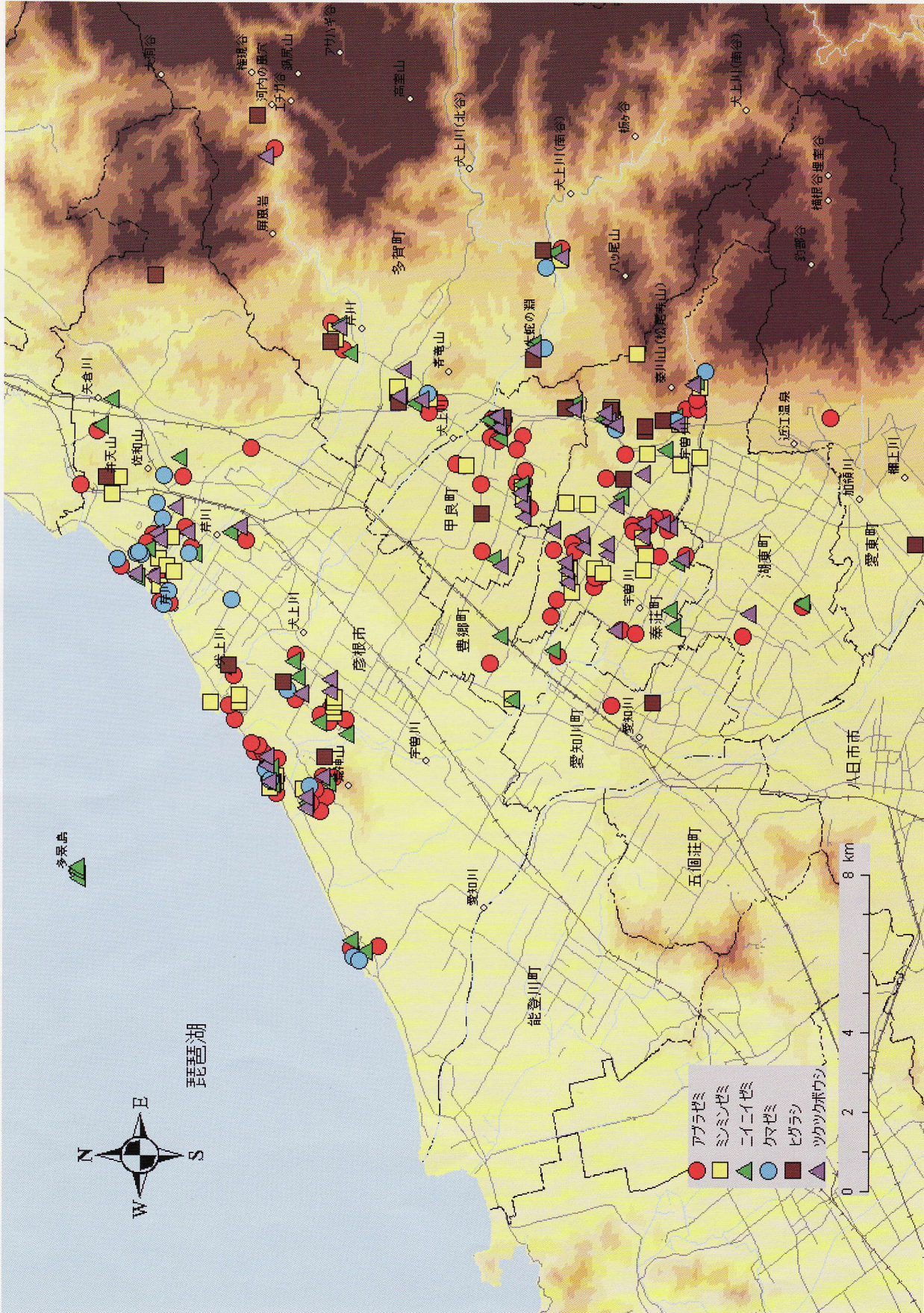
1位	社寺
2位	庭（家の周囲）
3位	雑木林
4位	保存緑地
5位	公園
6位	街路

今回の調査で一番多く見つかったのはアブラゼミでした。また、アブラゼミは庭で一番多く見つかっています。つまり、アブラゼミはセミの中でもっとも身近な存在だということではないでしょうか。また、他のセミも社寺や庭で多く発見されています。身近にセミがいるということは、まだまだまわりに自然が残っているということなのかもしれませんね。今残っている自然を大切に、少々うるさいときもありますが、毎年夏にはセミの声が聞こえる環境を残していきたいものです。



セミマップ

今回の調査結果を基に、今回調査したすべてのセミの生息地を湖東地域の地図上に示しました。セミの種類ごとのマップは「生き物マップ調査報告書 湖東の自然環境―セミの生息調査から」に掲載していますので、ぜひそちらを参考にしてください。

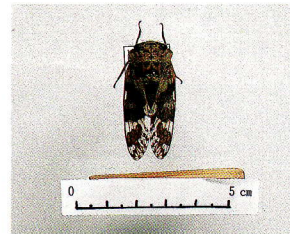


■ 今回調査したセミ

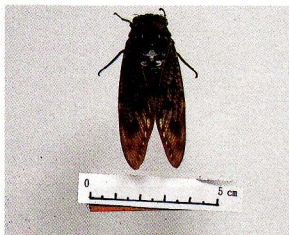
今回調査したセミについて簡単に紹介します。

① ニイニイゼミ

6月から9月に発生する小型のセミで平地から丘陵地にみられ、サクラ類やケヤキ、松類の樹林に生息します。ぬけがらは全身泥をかぶっていて、地上1メートル以下にあることが多い。地中での生活は約4年。



② アブラゼミ



北海道から九州に分布し、7月から9月に発生する大型のセミで、平地から山麓と広く分布し数も多い。地中生活が長く6年となっています。抜け殻ではクマゼミと間違えやすい。

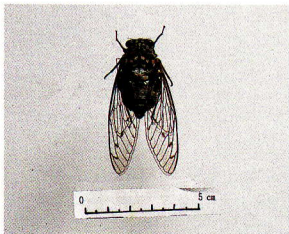
今回の調査で一番多かった種類です。

③ ヒグラシ

日本全国に分布し、7月から9月に発生する中型のセミ。広葉樹や杉・ヒノキ林に生息しています。名前のごとく夕方になくセミですが、最近朝方の同じ明るさの時期にもなっています。



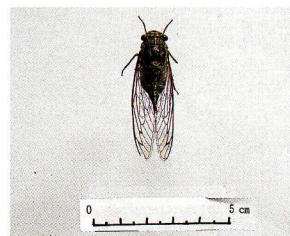
④ ミンミンゼミ



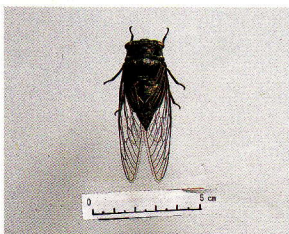
北海道から九州まで分布し、7月から9月に発生します。西日本では低山地から山地にみられ、名前どおりミンミンと鳴く大型のセミです。いろいろな広葉樹林に生息するが、特にサクラ類やケヤキを好みます。地中生活は5年。

⑤ ツクツクボウシ

北海道から南西諸島に分布しますが、北海道、東北地方は少ない。7月から11月に発生し、セミの中でも秋近くまで鳴いている中型のセミ。平地から低山地にみられ、サクラ、カキ、ミズキ、エゴノキなどに好んで集まります。地中生活は2年から3年。



⑥ クマゼミ



本州から南西諸島に分布し、7月から9月に発生する大型のセミ。いろいろな広葉樹林に生息し、平地を中心に見られます。日本では主に太平洋側で千葉県まで、日本海側では福井県あたりまで北上してきました。北へ分布を伸ばしているセミです。

環境学び舎

わのたね

わのたねでは、環境のことを考えながら
生活を送る人が少しでもふえることを目指して、
楽しく気軽に体験できる環境教育を行っています。

◆今までの活動実績◆



■環境教育わはは指導体験会
環境教育の指導者としての
経験を積むワークショップ

<主催事業>



■アクティビティのつくりかた
環境教育のアクティビティを仲間
とともに作成するワークショップ



■環境つむぎ場
環境などについて、自分の
想いを語りあうワークショップ



■ひと・まち・自然体験 のとがわを歩こう
能登川町内を歩き、まちと自然の楽しさを
再発見しました。



<受託事業など>

■第11回全国雑木林会議 分科会 テーマ：「環境教育は生活に生かされているか」
環境教育をどうすれば生活に生かせるのかを話し合いました。

■平成15年度淡海生涯カレッジ彦根校 「ネイチャーゲーム体験」
荒神山にてネイチャーゲームを中心に自然体験を行ないました。

■甲良町グリーンファイターズ (2003.12~)
甲良町の小学校4年生を対象に、自然体験などさまざまな活動のお手伝いをしています。

◆わのたねの活動メニュー例◆

【自然とのふれあい】

自然の中で様々な感覚を使う—自然のおもしろさに気づく感性を育てる
自然の多様性、命—色さがしや木の個性を感じる活動を通し、違いを認め合う

【人とのつながり・自分を見つめ直す】

生活体験 (キャンプ) —日常とは違う空間で、自分の役割を考える
コミュニケーション—伝えることの難しさ・聞くことの大切さを体験

【社会問題・生活とのつながり】 ・ ・ ・自分にできること—課題に対し、必要なこと・自分にできることを考える

環境学び舎わのたね 事務局

これら以外にも目的や活動場所、参加者に合わせてオーダーメイドのプログラムを用意いたします。

ひこね 自転車生活を すすめる会



小学生から上は70代まで、自転車を好きな人たちが集まっています。現在、会員は30名。会員募集中です!! あなたもいっしょに自転車生活をしよう! 自転車に興味関心のある人なら、誰でも本会の個人会員になることができます。会員になると、広報紙「自転車生活。」の配布および各種自転車関係のイベントや活動などにご参加いただけます。年会費は下記です。

- (1)個人会員:2,000円
- (2)ジュニア会員(高校生以下):500円
- (3)賛助会員:1口10,000円



ひこねリキシャー

昨年度の後半から突如として盛り上がった「陸舟奔車」と「ひこねリキシャー」。前者は彦根藩士が創った世界最古といわれるペダル式三輪自転車、後者は県立大学の建築の学生とのコラボレーションで生まれた自転車に引く天蓋のついた客車、どちらもものづくりの意欲を非常に強くかき立てられるもの。今年度はまず「陸舟奔車」の現代版を1台つくりたい。"皆さんに乗っていただく"を目標に、木製にこだわらず、車輪など既製の自転車部品を使いながら、楽しい1台を作りたい。「ひこねリキシャー」については、いまある1台を各種イベントに出して、お客さんやスタッフの声を聞き、改良していきたい。どちらとも彦根城築城400年祭のパレードに参加できる出来映えを目指して頑張っていきたい。

陸舟奔車



ひこね自転車タクシーを!



条例をつくらせるところから始める必要があるということになりますが、県内で他にも模索している団体や個人がいっぱいあるかもしれません。その方たちと情報を共有することも実現への足掛かりになると思います。アイデアをどんどん下さい。「ひこね」の冠にこだわることなく実現したいものです。

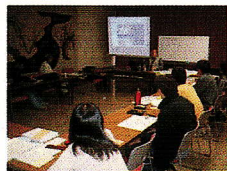


月に一度あつまってワイワイしております。どうぞお気軽にのぞいてみてください。

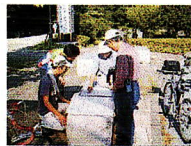
毎月の運営委員会

輪学(わ・がく)

「輪学」とは、自転車生活をすすめていくための勉強会や講演会のことと呼んでいます。



ひこねリキシャー in おもしろ自転車体験



設立経緯

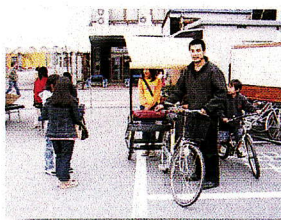
2001年から2002年の春にかけて、「彦根市エコ2自転車とまちづくり委員会」で活発に活動を続けてきた。提言を各委員でまとめた後、この活動組織をむしろNPOとして存続していった方が、より活発にまた自由に動けるのではということで、2002年今年夏ぐらいからそのあり方について準備を重ね、2002年9月に発足。

設立趣意書

自転車は機動性が高く、誰でもが手軽に利用できる乗物であるため、私たちは通勤・通学や買物といった日常的な交通手段として広く親しんできました。近年では、地球温暖化の防止策のひとつとして、環境面でもクリーンであり、かつ健康増進にも役立つ乗物として世界的にもその重要性が注目されています。今、私たちは、環境に配慮したライフスタイルへの変換に率先して取り組むことが求められていますが、自転車を中心としたライフスタイル(自転車生活)は、そのひとつのモデルになるものと考えます。そのような自転車を利用した生活(自転車生活)についての実践と提案を行うことにより、自転車文化の普及をとおして環境にやさしいまちづくりに貢献することを目的として本会を設立します。

サイクリング!

年2回企画します。夏は琵琶湖一周が既に決定。一泊二日でゆっくり時間をかけて、子供さんはじめ皆さんが楽しんで走れるよう検討中です。どなたにも(特に普段あまり自転車に乗らない人)楽しんでもらえるような、できるだけ車の通らない安全な道を選んで、のんびり走れるサイクリングをやりたいと思います。

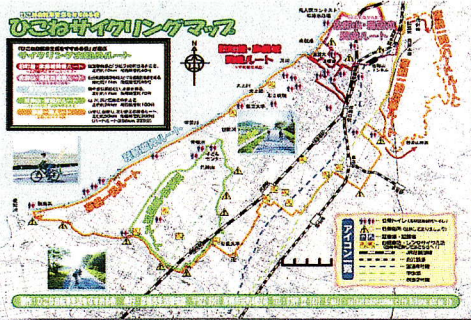


海津大船シブ&サイクリング(2003.4.13)の様子



自転車マップ/ヒヤリマップ

皆さんでこのマップを仕上げることで、彦根市の市民の方々に自転車に関心をもってもらうことはもちろん、彦根市において自転車、自動車、歩行者などあらゆる交通が反発しあうことのないまちづくりを行なうきっかけになってくれればと思っています。



駐輪場調査



ステッカーなどをデザインすることを考えています。駐輪場調査など、自転車についての情報などを調査してお知らせします。



2ヶ月に一度程度の発行。既に12号まで発行。

広報誌「自転車生活。」

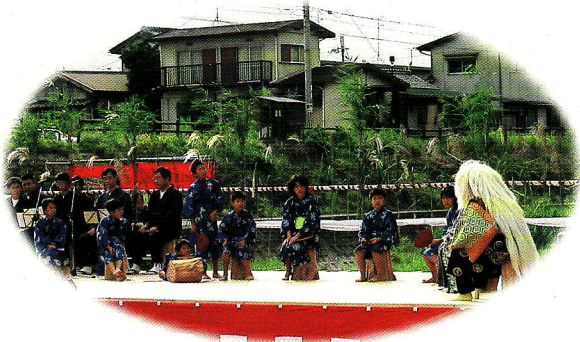
ひこね自転車生活をすすめる会 <http://homepage3.nifty.com/rcon999/>

■滋賀県立大学環境科学部近藤研内 担当:近藤隆二郎(090-9053-1812)

522-8533 彦根市八坂町2500 Tel 0749-28-8315/Fax 0749-28-8570 E-mail rcon@ses.usp.ac.jp

■Eco Style内 担当:竹内洋行

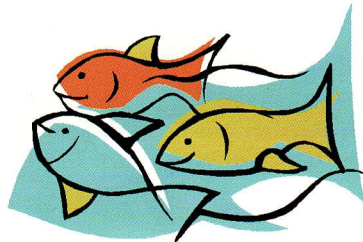
522-0083 彦根市河原2丁目4-6 Tel 090-3261-5803 E-mail eco_style@hotmail.com



2003年芹川河川敷で、子ども環境創作狂言「芹川」を公演。堤防から400人が見守る中、元気よく…。狂言を通じて芹川を美しくしようと訴えていました。



2004年ひこね万灯流しの特設会場にて「子ども狂言」を公演。狂言を通じて子ども達が積極的に考えを表現できるようになり、健全青少年活動にも一役。



～活動内容～

NPO芹川は、平成12年「芹川を美しくする会」という名前で発足いたしました。

彦根の市街地を流れる『芹川』は、近年その美しさを失いつつあります。近畿の水瓶といわれる『琵琶湖』に注ぐ川の生態系を守り、なお且つその美しさを後世に残すためには、継続した清掃・美化運動を「まちづくり活動」の一環として実施する必要性があると感じ、この会を立ち上げました。

月1回の清掃活動、年1回の隣接する9自治会と学生・一般ボランティアを含む1000人で行う一斉清掃。2003年からは、地域の子ども達と共に「子ども環境創作狂言『芹川』」等の狂言を公演し、子ども達から自然の大切さを訴えていこうという取り組みも始めました。

NPO 芹川

(旧 芹川を美しくする会)

平成17年1月設立



～今後の取り組み～

年1回の一斉清掃。地域や中、高校生等約1000人が参加。若い人たちに参加していただくことによって、高齢化している地域の人々も元気100倍。

～今後の取り組み～

芹川を美しくする会を立ち上げて5年。芹川を中心にして活動する「芹川大好き会」「芹川あるこう会」等も立ち上がり、芹川を中心にしてまちづくりが始まっています。これからは「NPO芹川」を立ち上げ、いろんな団体と一緒に今まで以上の積極的なまちづくりをしたいと考えています。今後は、芹川を見ながらコーヒーの飲める市民喫茶やみんなが楽しく散歩できる街角ギャラリー、ケヤキ道散策通りの整備に力を入れて生きたいと考えています。また、指定管理者制度が実施されるのに呼応して、地域市民施設の管理などにも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

毎月清掃。第1日曜日8時から有志での清掃活動。
1回のゴミの量は軽トラ2台。今では若者も加わり、約15～20人で実施。ゴミ何とかならない？

NPO 芹川 (旧 芹川を美しくする会)

理事長 有馬裕次

事務局：〒522-0051 彦根市中藪町722-1

TEL 0749-23-8272

FAX 0749-26-2150

Eメール moegi@mx.biwa.ne.jp

URL <http://f61.aaa.livedor.jp/~serikawa/>

犬上川を豊かにする会

私たちの会は、滋賀県が河川整備計画の策定にあたり、淡海の川づくり検討委員会「犬上川川づくり会議」に参加した人たちが、このままでは終わらせたくないという有志によって設立された会です。

会員も産・官・学・民で構成され市民主導で進めていく会が発足しました。「人と自然、活かされる犬上川を次世代へ」を目的に、会長に滋賀県立大学環境科学部 伏見 碩二教授を中心に各部会がテーマをもって活動しております。

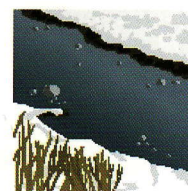
本年度の事業方針は「住民ができることをモットーに豊かな水環境づくりの推進」のもと事業計画をたてました。

1. 犬上川河川敷開出今地先の調査、奉仕、整備計画を推進する
2. 前年度に引き続き四者会談を推進する
3. 各部会に予算を計上し、部会の活性化を図る

事業計画のうち、犬上川河川敷開出今地先については、生き物部会、生活部会、近未来部会がこの河川区域を重点的に事業を展開いたします



[模型づくりしている 開出今地先の河川敷]



[タブ林は残った 中の島に残ったタブ林と改修状況]

大学院生の部会長を中心に部会員との連携をとって活動計画が推進されていきます。今後、滋賀県立大学とのコラボレーションを持ち豊かな犬上川をめざしていきたいと思っています。

連絡先：松尾則長（彦根市岡町103-4 電話 0749-23-8454）

宇曾川水系を見守る会

私たち「宇曾川水系を見守る会」は3年目の活動を行い、4年目に入ろうとしています。私たちの活動アクションの一つは彼岸花の植栽活動です。田んぼのあぜ道に彼岸花を植えることにより、（彼岸花は毒性が強いため）モグラやネズミが寄りつかず、畦から濁水などが流出しない事実を実践して皆さんに伝えております。その成果を見て頂くために、昨年の9月に県下の多くの環境団体を招き彼岸花観察懇親交流会を催しました。



総勢50人の参加をいただき楽しい交流の時間がもてました。また一昨年の秋にはどんぐりの苗木を700本植栽しました。水源の涵養林は数十年後に子供達が昆虫を追いかける森に変身するように、ボランティアの協力を得て実現できました。さらに、宇曾川水系が抱える慢性化した問題である、田んぼの代掻き期に濁水が河川から琵琶湖に流出するのを、食い止める実験を昨年の春に行いました。くん炭作りをし田んぼに敷き均し、その後に代掻きを行いくん炭を敷かなかった田んぼとの、濁水の沈殿実験を行い測定し実験結果を公表報告しました。

私たち約30名の会員で昭和30年代の水環境を呼び戻そうという思いで、今後も活動していくつもりです。本会に賛同頂く方があれば、一緒に行動を共にしてくれる方、是非多くの皆さんの参加を歓迎しております。



宇曾川水系を見守る会
 世話人 澤田 弘行
 東近江市横溝町224
 TEL 0749-45-0403

■ 会員を随時募集中！！

環境フォーラム湖東では随時会員を募集しています。

子どもからお年寄りまでみんなで参加する生き物調査や、会員相互の情報交流会など自主的な活動を、住民、事業者、行政のパートナーシップで進めていきます。

環境問題に関心のある方々や環境活動を実践している団体・事業者の皆さんのご入会をお待ちしております。

ご不明な点は事務局まで問い合わせてください。

- 【入会申し込み】 随時
- 【入会方法】 下記事務局にご連絡ください
- 【年会費】 個人：1,000円 団体：2,000円

■ ■ 生き物マップ調査結果が冊子になりました

本誌でも紹介しましたが、湖東地域のセミを調査した結果を冊子にまとめました。

生き物マップ調査報告書

湖東の自然環境—セミの生息調査から
ぜひご覧ください。



環境フォーラム湖東のロゴが完成いたしました。「湖東地域から琵琶湖全体をつなげ、環境の芽が出る活動を温かい心をもって続けていきたい」との思いから作られたロゴです。

■ 会員のみなさんへ

環境フォーラム湖東ではみなさんからの情報を募集しております。

イベント情報や普段の活動の様子などを情報交流誌『エコトピア』または、『フォーラム通信』に掲載していきますので、「ぜひ他の人にも伝えたい！」という情報がございましたら、下記事務局までご連絡ください。

また、こんな情報をぜひ載せて欲しいといったことなどもあわせてご連絡ください。

環境フォーラム湖東 事務局

- 〒522-0071
- 彦根市元町4-1 湖東地域振興局環境課内
- TEL 0749 - 27 - 2255
- FAX 0749 - 27 - 1688
- URL <http://www15.ocn.ne.jp/~foramkot/>
- E-mail dc43@pref.shiga.jp

■ あとがき

今回は年度末特大号でページ数も通常の1.5倍でした…。
来年度はより読みやすく、おもしろい紙面づくりを心がけて
いきます。よりたくさんの方に読んでいただけますように。

(山田)

- 発行 環境フォーラム湖東
- 編集責任 環境フォーラム湖東広報部会
- 平成17年3月発行